

一期一絵・・・

SILKLAND

Gallery news & communication

No.160

ギャラリー通信

Jun2022

<https://www.silkland.co.jp>



墨象 - 都市迷離 大竹 卓民 展

6/19(日)~7/2(土)

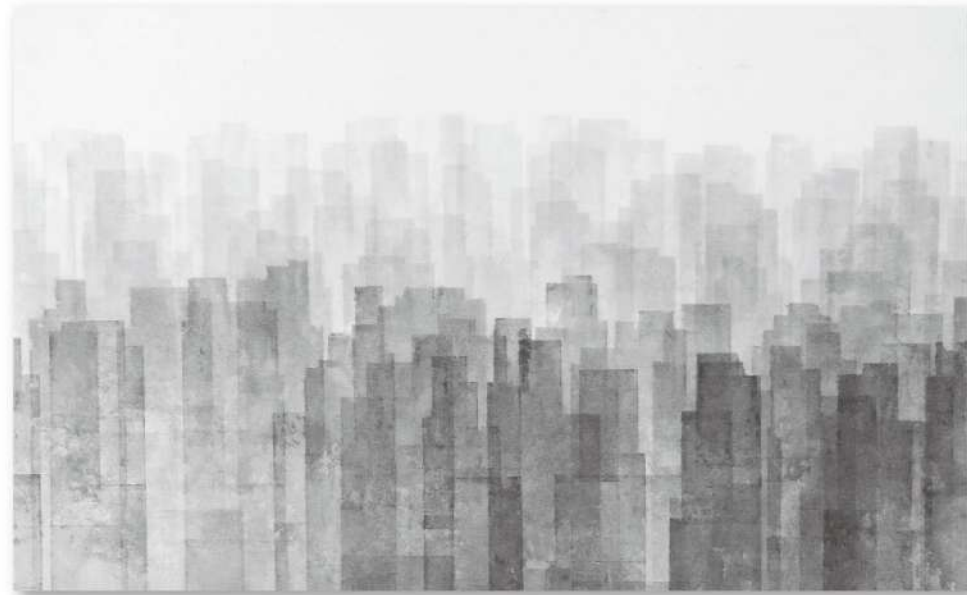
11:00-19:30(土・日・祝祭日は18:30まで) ※ 最終日は午後5時閉廊
作家来場日 6/19(日),23(木),25(土),28(火),7/2(土) ※ 午後1時半~5時

ごあいさつ

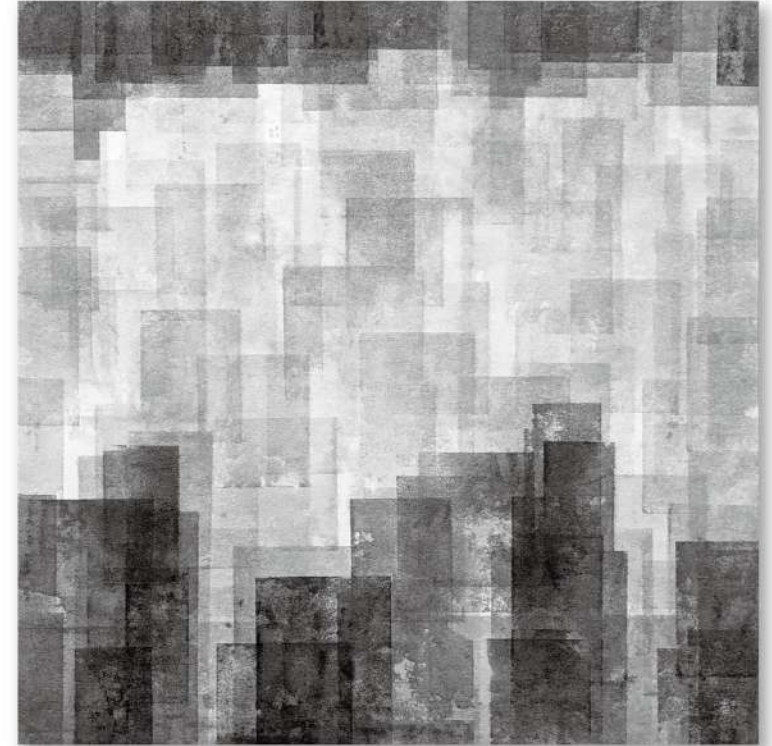
当画廊にて開催の『水墨玄空』展出品作家としても紹介を続けてきた大竹卓民先生による個展開催は、2012年『水暈墨章』以来2度目となりますが、これまで毛筆による筆法を自在に操る技術で見る者を唸らせてきた作家が、新たな境地を試みるべく、あえて筆踪（筆の跡）以外の表現を求め、千変万化する「墨」本来の姿を極限まで原始的に近づこうとする「墨象」へと展開しています。主な試みとして、墨を浸した正方形の紙を繰り返しスタンプした輪郭が幾重にも増殖していくかのような連なりを、都市の光景として創出した作品群を筆頭にご覧いただけます。そこには墨痕で造形することへの問いを作家自身へ投げかける大いなる探求心が、これらの作品からうかがい見れることでしょう。

令和4年6月

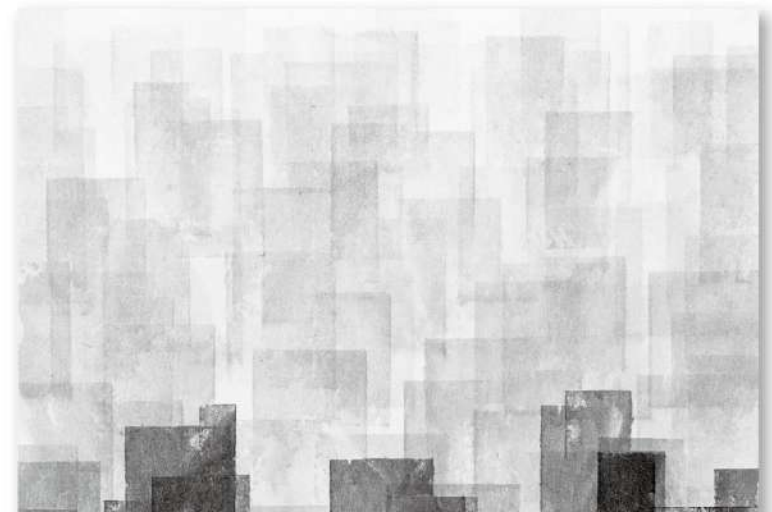
シルクランド画廊



《都市迷離-h》43×71cm



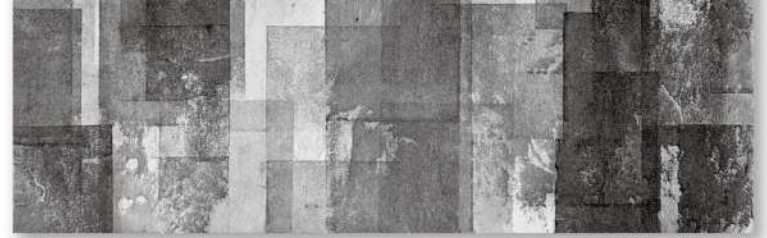
《都市迷離-u》44.5×44.5cm



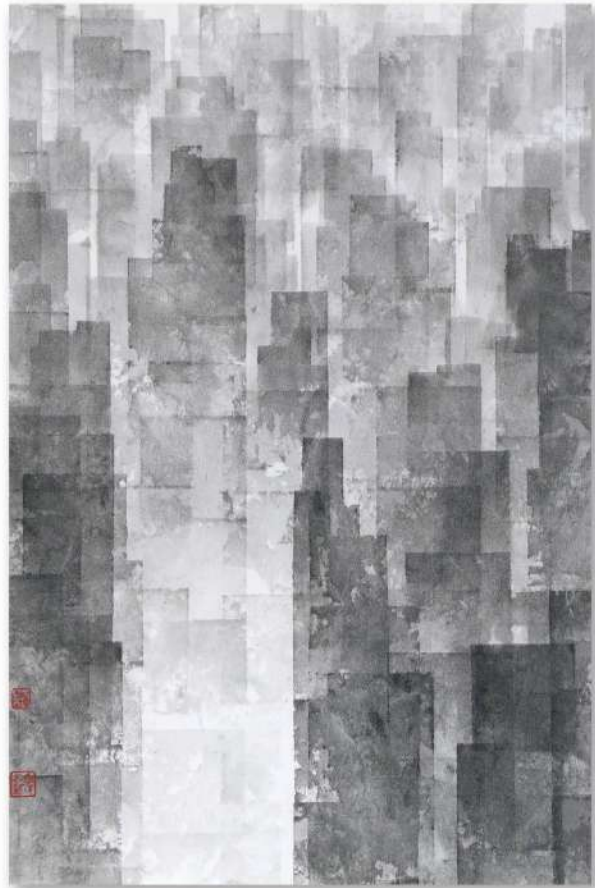
芸術家の本分は芸術言語を創造し、物の形に対する新しい認知方法を創造することである。「都市迷離」シリーズは、2020年春から手掛けた「非毛筆水墨画」の試みであり、「筆墨」を言

語形態として構築・制約される水墨画に対して、スタンプすることが物の形を構築するための唯一の語素単位となる。押印が重なり派生していくにつれ、その「墨象」自体は多様な意味の呈示を獲得し始める。

—— 大竹 卓民



《都市迷離-s》44.5×44.5cm



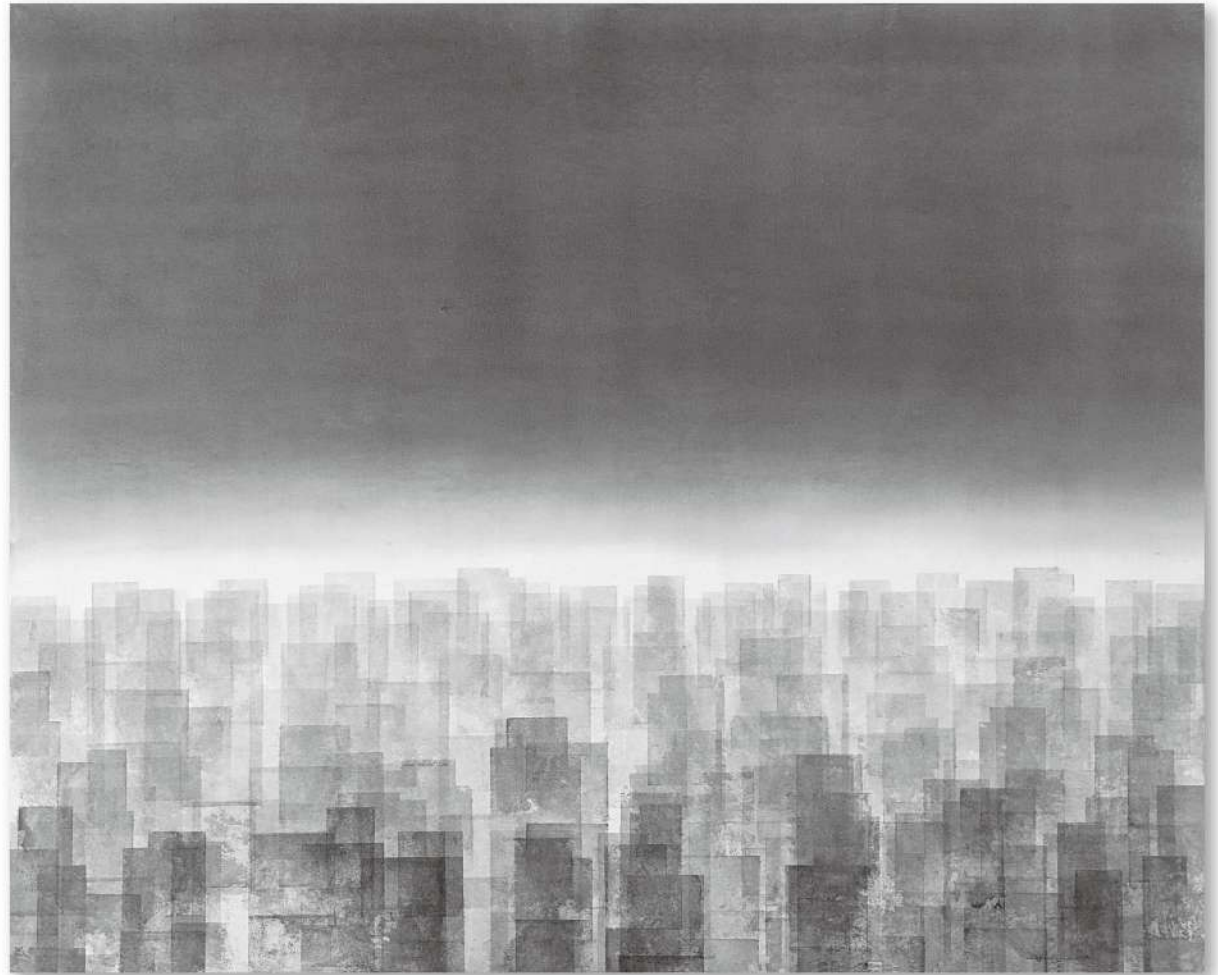
《都市迷離-f》71×48cm

QRコード



YouTube
「シルクランド画廊チャンネル」

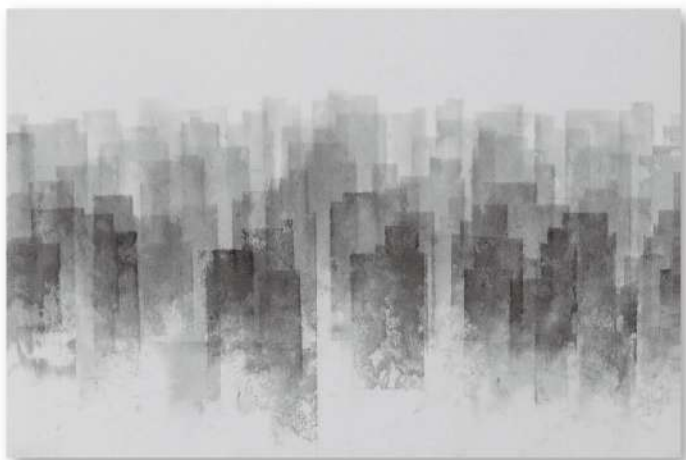
展示会の会期に合わせて制作した動画を
YouTubeにてご視聴いただけます。



《都市迷離-x》90.9×116.7cm



《都市迷離 -w》90.9×116.7cm



《都市迷離 -o》33×42cm

幼いころから中国で書画の修練を積んできた彼は、筆を完璧にコントロールできる人である。

「なんでも描ける」彼は、そんな自分を超越するために、完成作が予想できない「自分では描けない絵」を自分で描こうとしているのだ。そんな彼の姿勢を尊敬する。

美術史家 山下 裕二

※「筆のコントロールを越えて」より抜粋

※ 表紙作品《都市迷離 -L》186×90cm×4枚



大竹 卓民 略歴 Takumin Otake

1958年上海市生まれ / 1987年来日 / 武蔵野美術大学造形学部日本画科卒業、筑波大学大学院芸術研究科修士課程を修了 / 1995年より春季創画展、創画展等日本画公募展に出品 / 1998年より国内外にて個展。上海劉海粟美術館、日本橋高島屋、中国美術館（北京）、銀座シルクランド画廊、北京 798 芸術区芸術工廠・三度半画廊、上海油画雕塑院美術館他 / 中国中央美術学院・上海美術学院岩彩研究班招聘教授を歴任 / 《中国岩彩絵画概論》(2016年、中国語) 《宗達の謎》(2021年、日本語) 著書・論文出版発表 / 現在敦煌研究院美術研究所客員研究員、東京芸術大学大学院保存修復日本画研究室非常勤講師。



シルクランド画廊

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-5-11
第 15 丸源ビル 1 階

Tel 03-5568-4356 Fax 03-5568-4357
<https://www.silkland.co.jp> e-mail galler@silklnd.co.jp

アクセス ■ 地下鉄丸の内線、銀座線、日比谷線「銀座駅」B7,C2出口 徒歩2分
■ JR「新橋駅」銀座出口 徒歩